

日本とトルコ Japan and Turkey

Abstract

We made a study on the theme of “Japan and Turkey.” The current international relationship between Japan and Turkey is, historically, deeply rooted in Islamic religion. We found that there was a good possibility of Japan contributing to HALAL business and its globalization by considering how to interact with Islamic people in Japan while focusing on understanding the food cultures of both countries.

1. 目的

歴史的つながりの深いトルコと日本の現在から、日本のイスラームとの向き合い方について食文化を通じて考え、提案する。

2. 方法

トルコと日本の歴史を資料で調べ、両国の関係を考える上で、イスラームは不可欠である現状から、「日本がイスラームに対応すること」を課題として設定した。食文化に焦点を定め、茨木モスク、トルコ料理店の訪問からヒントを得て、イスラームとの向き合い方について、議論を深めた。

3. 結論・考察

日本人のイスラームへの理解・認知が欠けているため、日本でのイスラーム受入体制が十分ではなく、ゆえに、ムスリムの日本に対する信頼が薄いのだと考えられる。日本が明確なハラール認証制度を設けることで、ムスリムから見てわかりやすく、日本人からの認知もあげられるイスラーム受入体制ができると予想する。

また、この事業の成功が、ハラールビジネスへとつながり、日本のグローバル化に大きく貢献できる。

4. 参考文献

- 1) 森下翠恵/武井泉『ハラール認証取得ガイドブック』（東洋経済新報社、2014年）
- 2) アクマル・アブ・ハッサン/恵島良太郎『決定版「ハラール」ビジネス入門』（幻冬舎ルネッサンス、2014年）
- 3) 稲葉茂勝『さがし絵で発見！世界の国ぐに⑭トルコ』（あすなる書房、2014年）

アラビアンナイトから読み解く当時のイスラーム文化 Analysis of 8th Century Islamic Culture from Arabian Nights

Abstract

We did research on the culture and the way of thinking of Islamic people in around the 8th century by reading Arabian Nights, a compilation of stories made at that time, paying special attention to their exchanges with other cultures. As a result, it was found that the Islamic culture had exerted its influence upon other cultures but had also been influenced itself by other cultures.

1. 目的

世界中で読まれているアラビアンナイトを読むことで、今世界から注目されているイスラームの文化を理解する。

2. 方法

イスラーム文化圏が諸外国に影響を与えてきたと仮説を立て、それを裏付ける証拠を文献から見つけ出す。

3. 結果

諸外国の文化の中にイスラームからの影響が見られるだけでなく、イスラーム文化の中に、諸外国の文化が溶け込んでいることがわかった。

4. 考察・結論

現在のイスラームは、イスラームが拡大する過程で侵略した地域に影響を与え、また侵略された地域の慣習や文化も同時に溶け込んでいったため、地域ごとに特徴の見られる普遍的文化となった。

5. 参考文献

- 1) 西尾哲夫『100分de名著 アラビアンナイト』(NHK出版、2013年)
- 2) 西尾哲夫『アラビアンナイトの美術史』(八坂書房、2011年)
- 3) 前嶋信次『アラビアンナイトの世界』(平凡社、2013年)

マンガからみる日本のイスラーム文化に対する認識 －『乙嫁語り』を例に－

Japanese People's View of Islamic Culture Based on Reading Comics

Abstract

We analyzed a Japanese manga, 'Otoyome-gatari' and we found that there are few Islamic elements in it, even though it is a manga describing various events in an Islamic region. So, we decided to directly ask its cartoonist why that is so. Having heard her opinion, we could not but realize that there is a huge gap between Japanese views of Islam and that of Muslims themselves.

1. 目的

日本人が思い浮かべる“イスラーム”と、実際の“イスラーム”との違いを調べ、日本人がイスラーム文化を正しく知る。

2. 調査・研究の方法

日本人にとって身近なものであるマンガからイスラームについて学べるのなら面白いだろうと考えたため、マンガ大賞をとった漫画「乙嫁物語り」の中から私たちがイスラーム要素であると思うものを抜き出し、実際にそれがイスラーム要素であるかどうかをムスリムに伺い、文献を調べることによって検証した。その結果私たちがイスラーム要素であると思ったものの多くはイスラームによるものではなく、それらはその地域の習慣であることが分かり、実際は「乙嫁語り」のなかにはイスラーム要素が少ないことが判明したため、その理由を調べた。

3. 結論・考察

「乙嫁語り」の中にイスラーム要素が少ないのは作者が意図したことではなかった。これにより私たち日本人はイスラームに対する知識が少なく、それがムスリムにとってどれほど重要であるかを理解できていない現状があるのではないかと考察した。

4. 参考文献

- 1) 森薫『乙嫁語り』 1巻～8巻（角川書店、2009年～）
- 2) 小松久男『イスラームを知る 18「激動の中のイスラーム」中央アジア近代史』（山川出版社、2014年）
- 3) 宇山智彦『中央アジアを知るための60章』（明石書店 2003年）
- 4) 笠沙雅章 監修、間野英二 責任編集『アジアの歴史と文化 8 中央アジア史』（角川出版 1999年）

『銀河鉄道の夜』に見る宮沢賢治の宗教観 Miyazawa Kenji's View of Religion

Abstract

We made a study on “Kenji Miyazawa’s view of religion” by reading various pieces of literature or literary works and specifically by comparing “Campanella” and the young people who died in the maritime accident of the Titanic.

1. 動機

イスラーム比較文化というテーマの中でさまざまな宗教の知識を持っていたといわれる宮沢賢治に興味があったから。

2. 調査・研究の方法

まず小説「銀河鉄道の夜」を読み、疑問に思ったところを挙げて、調べるべき点を明らかにした。次に、作者である宮沢賢治の生涯、彼が信仰していた法華経について調べた。その後、それらをふまえて文献や論文を参考に、宮沢賢治が知識を持ち、作中にもその影響がみられるキリスト教、イスラームと法華経の共通点、登場人物の言葉が意味するものについて考えた。

3. 考察

「自己犠牲」に焦点を当てて考えた。賢治は多くの宗教で肯定されている自己犠牲という行為の正当性を作中で問うている。わたしたちは銀河鉄道の乗客であるカムパネラと家庭教師の青年、また作中で出てくるエピソード「さそりの火」と賢治の作品「よだかの星」を比較し、賢治は既存の宗教を通して新しい生き方を描いていると考えた。

4. 結論

賢治は自己犠牲の中でも生につながるものに価値があると感じていた。

5. 参考文献

- 1) 宮沢賢治『新編 銀河鉄道の夜』（新潮社、1989年）
- 2) 村瀬学『『銀河鉄道の夜』とは何か』（大和書房、1989年）
- 3) 鎌田繁「イスラームと仏教」（『東洋学術研究』53巻2号、pp. 25-51、2014年）
- 4) 入沢康夫・天沢退二郎『討議『銀河鉄道の夜』とは何か』（青土社、1990年）
- 5) 佃山博『美しき死の日のために 宮沢賢治の死生観』（学習研究社、1995年）
- 6) 吉本隆明『宮沢賢治の世界』（筑摩書房、2012年）
- 7) 沼田純子『宮沢賢治 言葉と表現』（和泉書院、1994年）
- 8) 丹治昭義『宗教詩人 宮沢賢治 大乘仏教にもとづく世界観』（中央公論社、1996年）

服装から見るイスラーム

Looking at Islam by Way of the Clothing Its People Wear

Abstract

We wondered why the clothes which Islamic women wear were so different from each other in spite of the fact that they all believe in the same religion, Islam. As the result of our investigation into the reasons, it was found that women's clothes are closely related to the climate of the land, not to denominations of Islam.

1. 目的

イスラームの女性の服装の違いは、何と関連しているのかを調べ、そこから服装の由来を読み解く。

2. 調査・研究の方法

まず私たちは服装の違いは宗派の違いによるものであるという仮説を立てた。そこから服装の種類とその分布について調べその結果を地図にまとめた。宗派についても地図を作ったが、その中で気候との関連もあるのではという考えも出てきたために、気候と宗派の二方向から探ることにした。

3. 分析と検証

宗派と服装、それぞれの分布図を見比べてみても共通点や関係性が見当たらない。このことから、宗派と服装の宗派と服装の違いは関連しているとは言えない。

4. 論証・考察

気候と服装の違いについての分布図を見てそれぞれを比べてみると、国や地域ごとに結びつきが強く関係性もわかりやすく現れている。このことから、気候と服装には関連性があるといえる。

5. 結論

イスラームの女性の服装の違いと、宗派との関連性はなく、気候と密接に関係している。

6. 参考文献

- 1) I, A. イブラーヒーム「イスラーム理解の図説ガイド」
<http://www.islam-guide.com/jp/ch3-13.htm>(2016年1月25日確認)
- 2) 鷲田清一『服の力3』(岩崎書房、2007年)
- 3) パトリシア・リーフ・アナワルト『世界の民族衣装・文化図鑑』(柘風舎、2011年)

イスラーム文化へのアプローチ Approach to the Islamic Culture

Abstract

We conducted research on "Islamic Culture." First, we expanded our knowledge of Islam. Next, we made a questionnaire survey asking what Muslims really need. From the results of our survey, it was found that many Muslims have problems with their lodging. Therefore, we will do research on the status of hotels in Japan to propose a plan for an ideal hotel.

1. 目的

イスラームの生活様式や文化について学び、ムスリムにとって日本が滞在しやすい国になるような方法を探る。

2. 調査・研究の方法

まず、イスラームの生活様式について学ぶために、ハラールを中心にインターネットや書籍を用いて調べた。次に、大阪大学の学生食堂を訪問し、実際にハラールフードを食べ、イスラーム食の現状を調査した。また、茨木モスクで私たちが作成したムスリムの要望にはアンケートを実施。さらに、アンケートの意見を元にムスリム旅行者にも焦点を当て、関西のムスリム対応・ムスリムフレンドリーのホテルに電話でお話を伺った。

3. 分析と考察

大阪大学での調査より、全てのムスリムの方が安心して食事をできるようにするためには、「情報を提供すること」が最も確実であると学んだ。アンケートでは「ムスリムの方が日本に対して感じていること」を中心に聞いた。集計した結果、「食事」を始め、「礼拝」「入浴」など日常生活に関することがあげられていた。これらを踏まえ、私たちはムスリムが日本を訪れたときに一番関わりがある「ホテル」に焦点を当てると、ムスリムの要望には完全には対応し切れていないという現状がわかった。この現状を打開するために、「理想のムスリム対応ホテル」に必要な条件を考えた。

4. 参考文献

- 1) 森下翠恵『ハラール認証取得ガイドブック』（東洋経済新報社、2014年）
- 2) ライフサイエンス『知っておきたいイスラームのすべて』（三笠書房、2015年）
- 3) 日本ハラール協会 jhalal.com(2016年1月25日確認)
- 4) 大阪大学生協生活協同組合 <http://www.osaka-univ.coop/food/06.html> (2016年1月25日確認)
- 5) アクマル・アブ・ハッサン、恵島良太郎『決定版「ハラール」ビジネス入門』（幻冬舎ルネッサンス、2014年）

フェアトレードでインドネシアの社会問題を解決できるか Whether or Not You Can Solve Problems in Indonesian Society with “Fair trade”

Abstract

There are issues of poverty in Indonesia. We paid special attention to the role which Fair Trade will play in solving them. We thought that there is a possibility of finding solutions in the activities of APIKRI, one of the Fair Trade organizations in Indonesia. As a result, we came to conclude that empowerment of villages is the most important means of eliminating the gap between the rich and the poor.

1. 目的

フェアトレードを用いてインドネシアの社会問題である貧困や女性の地位についての問題を解決できるか考察、論証する。

2. 調査・研究の方法

インドネシアのジョグジャカルタにあるフェアトレード団体 APIKRI についてその歴史や活動理念、活動結果を文献で調べ、実際にインドネシアへのフィールドワークに参加した生徒に APIKRI の関係者の方に話を聞いてきてもらった。

3. 分析と検証

2006年のジャワ地震の被害を受けたギリヨロ村で APIKRI はその村の伝統産業であるバティックの工房、ベルカ・レスタリとの協力で復興に当たった。その過程での APIKRI の活動が研究内容と合致するのではないかと考えた。

4. 結論

発展途上国の社会問題の解決にはフェアトレード団体の存在が手助けとなる。格差の解消には APIKRI の活動のように村の活性化（エンパワーメント）が有効である。

5. 参考文献

- 1) 長尾弥生『フェアトレードの時代』（日本生活協同組合連合会、2008年）
- 2) 牧里毎治『これからの社会的企業に求められるものは何か』（ミネルヴァ書房、2015年）

フェアトレードタウン運動 Fairtrade Campaign

Abstract

We hope that Toyonaka City will be approved as a fairtrade town. We sought ways to enable Toyonaka City to become a fairtrade town and worked out a plan to go ahead with activities to promote the concept of fairtrade in Toyonaka City.

1. 目的

自分達の高校がある豊中市をフェアトレードタウンにするための方法を考察し、最終的に豊中市のフェアトレードタウン化を図る。

2. 方法

まず、フェアトレードタウンの理解を深めるために参考文献・資料の分析を行い、どのようなアプローチでフェアトレードタウン化を進めていくか議論した。また、フェアトレードタウン・フォーラム理事、NGO フェアトレード・サマサマ事務局長である小吹岳志氏を本校に招き、10年前大阪市のフェアトレードタウン化に着手したお話など大変参考になるご助言をいただいた。これらをふまえ、国際交流の会とよなかの運営するTIFA カフェサパナを訪問し、市民の啓発活動を協力して行っていくことを約束した。

3. 結論・考察

豊中市をフェアトレードタウン化するためには議会や行政の承認が必要であるが、そのような機関の承認を得ることは高校生の力だけでは厳しいため、TIFA カフェサパナなどのカフェと市民の啓発活動を行うと共にとよなか市民環境会議アジェンダ21などの団体と議会に豊中市フェアトレードタウン化を提案していくというアプローチが目標達成への近道である。また、自分達の高校をフェアトレードスクールにするという試みを実行に移していき、少しでも豊中市のフェアトレードタウン化につなげることも必要になっていく。

4. 参考文献

- 1) FAIRTRADE JAPAN http://www.fairtrade-jp.org/about_fairtrade/ (2016年1月25日確認)
- 2) 日本フェアトレード・フォーラム <http://www.fairtrade-forum-japan.com/> (2016年1月25日確認)
- 3) 遠藤茜「フェアトレードタウン運動と、フェアトレード普及の可能性 -フェアトレードシティくまもとを事例に-」 http://web.sfc.keio.ac.jp/~llamame/wiki/index.php?plugin=attach&pcmd=open&file=endo_12f.pdf&refer=%E6%88%90%E6%9E%9C%E7%89%A9 (2016年1月25日確認)

フェアトレードを広める最適な方法 The Best Way to Spread “Fair Trade”

Abstract

Now that developing countries are suffering from unfair trade, it is more important to promote “fair trade” among them as a long-term support than to provide temporary financial support to them. We came to the conclusion that by actually practicing “fair trade,” we would be able to contribute to the diffusion of “fair trade.” We worked out a plan to practice “fair trade” and investigated what effect our activities had on those countries.

1. 目的

フェアトレードについての広く正しい理解を自分たちのみならず周囲にももってもらおう。

2. 方法

まず、生徒のフェアトレードについての認知度がどれほどのものなのかを知るために生徒を対象に認知度調査を行った。

そして実際にインドネシアへ行き、現地の状況や商品を作る苦勞を学び、商品を仕入れ、販売時にはインドネシアでの学びを伝えるという形で、自分たちで販売し「フェアトレード」を行う。

販売の際にはフェアトレードについて書いたビラやツイッター、校内放送などを利用して宣伝を行った。この活動後に再び生徒を対象としたフェアトレードについての認知度調査を行い、反応や効果を調べた。

フィールドワークとして、立命館大学フェアトレード団体を訪問し、販売する際のアドバイスを頂いた。

これらをふまえ、自分たちのアプローチがフェアトレードを理解する、してもらう上で最も有効な方法であったのかどうかについて議論を深めた。

3. 結論・考察

実際に自分たちがフェアトレードを行い、食堂で販売することは、ただ単にフェアトレードへの理解を広めるだけでなく、周囲の人々により身近にフェアトレードを感じてもらいやすいと考えられる。これは認知度調査からも伺える。

以上により、高校生が自ら実践してフェアトレードを行うことは世間にフェアトレードを身近に感じ、理解してもらうための最善の方法であると結論づけた。

4. 参考文献

- 1) 長尾弥生『フェアトレードの時代』（日本生活協同組合、2008年）

エネルギーの最適化 The Optimization of Energy

Abstract

We made a study on the issue of optimization of energy in Japan. After having investigated the present status of power generation in Japan, we tried to find out the best proportion of power generation methods in Japan in terms of environmental conservation and safety management.

1. 目的

現在、あまり多く利用されていない再生可能エネルギーの拡大方法を考えることを主に、枯渇性資源との利用の割合の最適化を考察する。

2. 調査・研究の方法

まず、豊中高校生のエネルギー問題に対する意識を、アンケートを実施することによって調べた。さらに、関西電力の方々に研究に対するご助言をいただいた。次にインターネット・書籍を通して様々な発電のコストなどを調べ、アンケートと合わせて発電方法の最適な割合を考察した。

3. 分析と検証

アンケートの結果、エネルギー問題について重要だと回答した生徒はアンケートをした全体の約60%だった。多くの生徒が環境問題よりも発電方法の安全性のほうが重要だと答え、また現在の電気料金が高いと回答した人は60%だったが、安全性向上のためなら電気料金を上げてもいいと回答する人は多く、平均で電気料金を10%上げてもいいという回答が多かった。

4. 論証・考察

今後、日本国内において、安全性・安定性の両方をクリアできる可能性がある発電方法は小水力発電と地熱発電である。これらを普及させるためには小水力、地熱ともに主に社会的な問題を解決する必要がある。

5. 結論

再生可能エネルギーが重要な発電方法となるためには、安定性の面を補う性能の良い蓄電池の開発が必要不可欠となることが分かった。

6. 参考文献

1) 自然エネルギー白書2015

<http://www.isep.or.jp/library/category/japan-renewables-status-report/>
(2016年1月25日確認)

持続可能な社会のための地域開発 Community Development for a Sustainable Society

Abstract

We conducted research on the theme of "community development for a sustainable society." We analyzed the issues regarding community development in PLTA Koto Panjang in Indonesia and found solutions to them. Finally, we worked out a rubric to promote community development for the ideal sustainable society.

1. 目的

世界の人口が増加していくなかで、人々の生活を維持していくためには、地域開発が必要であると考えます。そこで、地域開発によって引き起こされる課題を分析し、その解決方法を考え、最終的に、持続可能な社会を作ることのできる地域開発の指標となるルーブリックを作成する。

2. 方法

まず、地域開発の課題が発生する原因を探るため、インドネシアのコトパンジャンダムで発生した課題を調べた。またフィールドワークとして、箕面川ダムを訪問し、コトパンジャンダムにおける自然保護に関する課題の解決方法を探った。また、文化面での課題の解決方法を探るため、ムスリムであるエジプトの方にお話を伺った。問題を解決する上で、重要視されるポイントから、理想的な地域開発を実現するためのルーブリックを作成した。

3. 結果・考察

地域開発の課題解決には、事前調査が大きくかかわっていることが分かった。調査の段階で、今回作成した、自然・文化・経済に関するルーブリックの、三項目すべて最高の評価がつく場合、望ましい地域開発が行われると考えられる。

4. 参考文献

- 1) 桜美林大学 国際協力専攻ホームページ河田裕親(2006)「日本の対インドネシア ODA とコトパンジャン・ダム」(2016年1月25日確認)
<http://www.obirin.ac.jp/la/ico/con-sotsuron/sotsuron2006/2006M-kawata.pdf>
- 2) 大阪府池田土木事務所パンフレット「箕面川ダムにおける自然回復状況調査の主旨と結果の概要」

身近な場所での小水力発電の可能性を探る Exploring the Possibility of Small-Scale Hydroelectric Power in the Familiar Place

Abstract

Energy is essential for our daily lives today. Therefore, we are required to develop eco-friendly power generation methods. In this paper we will focus on the small-scale hydroelectric power generation method, and try to see if we can operate the system by ourselves. We visited Yono River to make an inspection of the system. We saw the site for a once-functional small hydroelectric power generation system and deepened our knowledge of it by hearing from people who knew it well. After that, we have been pondering whether it might be possible to make a power generation unit by ourselves.

1. 目的

環境により発電方法を自分たちで提案すること。

2. 調査・研究の方法

各種の再生可能な自然エネルギーを調べ、それらの長所や短所を比較した結果、発電効率が高く、地域の活性化に繋がると言われている小水力発電に注目した。そこで、身近な場所である、箕面市の余野川で、かつて小水力発電が行われていたことを知り、フィールドワークとして余野川に行き、その際、箕面地域の環境問題に詳しいアジェンダ 21 の佐藤さんに同行していただき、お話を伺った。

3. 考察

経済発展による環境問題の深刻化などにより、小水力発電などの再生可能エネルギーの重要性が指摘されつつある。そこで、現地で学んだことを元に、私たちの可能な規模で小水力発電を作れないかと考えた。

4. 結論

自分たちで小規模な発電機を自作した。

5. 参考文献

- 1) 全国小水力利用推進協議会 「J-WatER」 <http://j-water.org/> (2016年1月25日確認)
- 2) サコダ小水力設計合同会社
<http://sakoda-water.c-co.jp/pages/65.html> (2016年1月25日確認)
- 3) 全国小水力利用推進協議会編 『小水力発電がわかる本』 (オーム社、2012年)
- 4) 今泉大輔 『再生可能エネルギーが一番わかる』 (技術評論社、2013年)
- 5) 飯田哲也編 『自然エネルギー大図鑑 2 地熱小水力発電ほか』 (偕成社、2012年)

インドネシアにおけるスマートヴィレッジの有効性の検証 The Effectiveness of the Smart Village in Indonesia

Abstract

Analyzing what makes Indonesian electrification rate low, we found that “Smart village” is one of the most efficient solutions and verified its effectiveness.

1. 目的

インドネシアに電気が普及していない原因を探り、その現状を改善するための実現可能な施策を考え、提案する。

2. 方法

まず、インドネシアの電化率が低いという現状についてインターネットや文献を用いて調べ、分析した。関西学院大学 巳波弘佳教授の「小水力発電における最適化」についてのお話を聞いたことで、インドネシアに電気を普及させる方法としてスマートヴィレッジを見出した。静岡大学アジアブリッジプログラム/農学部 藤本穰彦先生にご協力いただき、実際にインドネシアに電気を普及させる活動をしている企業を訪問した。そして、それにより、非電化地域の現状や私たちの提案に対するフィードバックなどを伺った。

これらをふまえ、スマートヴィレッジによってインドネシアの非電化地域に電気を普及させた場合には、どのようなメリット、デメリットが生じるのか検討した。

3. 考察・結論

多くの島から成り立っているインドネシアでは、従来型の大規模な電力設備を導入出来ないことが、電化率が上がらない原因となっている。そこで、スマートヴィレッジという新しい電力設備の導入を検討した。まず、そのメリットとしては、電化率が向上するだけでなく、雇用や新しいビジネスチャンスが生まれるなどがあげられる。しかし、スマートヴィレッジの実現にかかるコストの問題、再生可能エネルギーでの不確実さなどのデメリットも現時点では挙げられる。このように、スマートヴィレッジは、課題の多い事業だが、実現価値のある取組みであるため、その今後の発展に期待したい。

4. 参考文献

- 1) 全国小水力利用推進協議会編『小水力発電がわかる本 ―仕組みから導入まで―』(オーム社、2012年)
- 2) 今泉大輔『再生可能エネルギーが一番わかる』(技術評論社、2013年)